

官民一丸で未曾有の難局克服へ 新会長に坂巻伸昭氏を選出

JATAは6月22日、東京・霞が関の全日通霞が関ビルで第64回定時総会を開催しました。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今年のJATA定時総

会は、例年よりも会場の規模を縮小すると同時に、出席者には

フェイスシールドを配布して、ソーシャル・ディスタンスングを確保し

た座席配置も工夫するなど、万全の感染防止策を実施。ステージ

上の議長席や演壇にも透明のパーティションが設置され、登壇した

観光庁の田端浩長官とJATAの田川博己前会長の挨拶も、旅行業界が直面する未曾有の難局への対応に終始し、官民一体で危機感を共有する形となりました。

総会では、2019年度事業報告と収支決算報告を承認し

たほか、2020年度事業計画などについて報告も行われていま

す。臨時理事会では、新会長として東武トップアースの坂巻伸

昭代表取締役社長執行役員、新副会長（国内旅行担当）として

JTBの高橋広行取締役会長が選出

され、留任した菊間潤吾副会長（海

外旅行担当）、堀坂明弘副会長（訪日

旅行担当）とともに新体制がスタートしました。

田端 浩 観光庁長官

旅行消費により地域経済に貢献を

来賓として総会に出席し

た観光庁の田端長官は、国内旅行需要の復活に向けて

1兆3000億円の予算が投じられる「GoToトラベル」事業に

ついて、「22兆円という規模の国内旅行消費による地域経済への

効果を踏まえたもの」という認識を示し、ツーリズム産業が「丸と

なつて取り組むよう呼びかけました。

田端長官は、「この機会に、旅行者もサービ

ス提供者も旅行者に価値の高い旅行を提供して、地域経済を支えてほしい」と訴えました。

また、利益率の低さが指摘されている旅行業界について「今こそ

変革のチャンスであり、リアルエージェン

トとしての企画力や提案力が求められている」という認識を示しています。

国際交流の活性化を図る

田端長官は地域共通クーポンについても、「旅行による経済効果を地域の隅々にまで波及させるものであり、地域での滞在型旅行につなげてほしい」と語り、積極的な活用を促しました。

さらに、日本と各国との国際交流については、「各国の入国規制がどのように緩和されていくかは未知数で、航空便の増便や旅行流動復活も各国の入国規制と密接な関係がある」と指摘。「グローバルビジネス再開のために産業界が



田端浩 観光庁長官



田川博己 JATA前会長



坂巻伸昭 JATA新会長

らの声も重要だ」と語り、「観光庁としても、国際交流の再活性化に向けて取り組んでいく」と決意を示しています。

田川博己 JATA前会長

事業継続へ全面的な支援を国に要請

JATAの田川前会長は、「新型コロナウイルスの感染拡大によって旅行業界に前例のない甚大な被害がもたらされた」と指摘すると同時に、そうした状況の中で当面の経営支援と需要回復を目指すため、(1)雇用調整助成金の助成額引き上げと支給限度日数の延長、(2)感染予防策を業界で共有することを条件とする

の実施、(5)出国時の検温・健康チェック体制など国際交流復活の仕組みづくり、などを国に要請してきたことを強調。

田川前会長は、「3月に実施された官邸でのヒアリングでは、安倍晋三首相から『観光は日本の成長戦略の柱であり、まず、事業が継続できるよう全面的に支援する』という言葉をいただくとともに、『しかるべき時期にV字回復を実現するため、前例のない規模の旅行キャンペーンを実施できるように予算化する』と約束していただいた」と振り返り、「5つ目の『国際交流』を除いて、すでにほぼ実現することができた」と説明しています。

力を結集し海外旅行復活

また、田川前会長は、国への要請での「大きな成果」の要因として、「インバウンドの興隆により、観光がわが国の基幹産業として成長したこと」とともに、「JATAが実行力を備えてきたこと」とあるという認識を示しています。

自粛の緩和、
(3) 修学旅行の延期による実施や取消料の補填、(4) 前例のない大規模な観光需要喚起キャンペーン

田川前会長は、(1) ツーリズムEXPOジャパンを主催し、民間で観光大臣会合を開催するまでになったこと、(2) 政府の二国間交流プロジェクトなどを通じて世界の期待に答えてきたこと、(3) 観光庁幹部との定期協議などを通じ、日常的に行政との連携を強化してきたこと、という3点に象徴される活動により「真の業界団体として認められるまでになった」と強調しました。

さらに、田川前会長は海外旅行の回復による相互交流の再活性化について、「各国の感染状況や国境管理など多方面の調整が必要となるものの、引き続き、関係方面への働きかけを継続し、あらゆる力を結集して海外旅行と国際交流の復活に努めていきたい」と強い意欲を表明しました。

坂巻 伸昭 JATA新会長

「協調」と「共創」がテーマ

臨時理事会で選出された坂巻JATA新会長は、「旅行業がかつて経験したことのない難しい局

面に晒されている」と危機感を示し、「このような時こそJATA設立時の原点に立ち返り、『会員のため何ができるのか』を常に意識することが大切であると考えている」と語りました。

「旅行業は人によつて成り立っている」と強調した坂巻新会長は、「会員が互いに意見や英知を寄せ合い、開かれたJATAが求められている」とも指摘、「会員の方々の声を直接聞くことができ、る仕組みを構築したい」と考えを示しています。

旅行業の役割や影響も以前とは比べ物にならないほど広がってきていることから、坂巻新会長は「国や省庁、自治体など国内だけでなく、各国の関係業界とも今まで以上に連携を強化し」「共に歩む『協調』と共に創る『共創』をテーマに取り組んでいきたい」と就任の抱負を述べました。



6月22日現在のJATA正会員数は1196社。委任状を含めた出席は947社で、総会は適法に成立しました



壇上の議長席には透明の衝立が設置され、フェースシールドを装着した理事の姿も